テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14　備忘ログ(PATCH2.1)　メインクエスト

メインクエスト　その１

「暁」の在り方　～　冒険者ギルドからの依頼

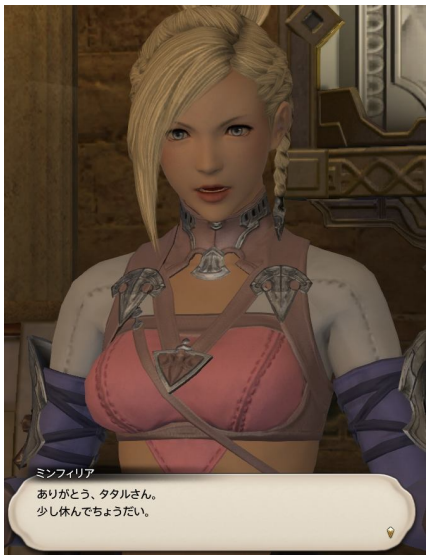
©2010－2014 SQUARE ENIX CO.,LTD.All Rights Reserved. FINAL FANTASY XIV

「暁」の在り方

ミンフィリア ： ああ、◇◇◇。……あなたに相談があったの。

タタル ： お話し中に失礼しまっす。ミンフィリアさん、アシュガナ貿易の方、お帰りになられたでっす。
……ふう、このところ来客の相手が続いてて、さすがにイヤになってくるでっす。

ミンフィリア ： ありがとう、タタルさん。少し休んでちょうだい。



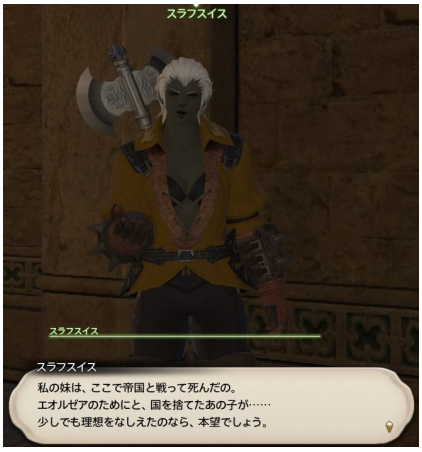
タタル ： はいでっす。

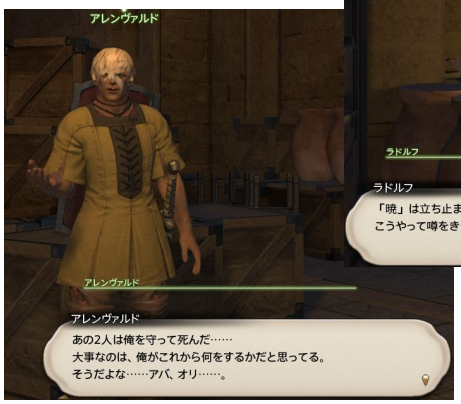
ミンフィリア ： あなたが各地に現れた蛮神を討滅し、ガレマール帝国のアルテマ・ウェポンを撃破したことで、わたしたち「暁」も注目を集めているわ。
「暁」に協力を申し出る人々、それに組織や勢力が、あの戦い以来、急激に増えつつある。
わたしたちが認められたという証ですもの。それ自体は嬉しいことなのだけど……。
でも、その一方で「暁」を政治的に利用しようとする連中も増えてきているの。
もちろん、直接そんなことは言わないけど、少し裏を探ればすぐに分かってしまう。
……いま来ていたお客さんもそうよ。要求をまとめると、わたしたちに資金を援助する代わりに、
派閥争いの後援をしてほしいってところかしらね。
小さな商会から、ウルダハの砂蠍衆まで……。さまざまな組織が接触してきていて困っているの。
わたしたち「暁」の目的は、エオルゼアの救済。それも、中立な立場での活動において……ね。
わたしたちは、政治的に利用される組織であってはならない。……でも、もっと広く活動するためには資金も必要よ。
……膨大な資料や技術提供はともかく、お金のことまで、いつまでもシャーレアン本国のバルデシオン委員会に頼っていられないしね。
ごめんなさい……。相談のつもりだったのに、なんだか愚痴になってしまったわ。
……そういえば、賢人のみんなは、最近の状況をどう思っているのかしら……。

スラフスイス ： 私の妹は、ここで帝国と戦って死んだの。エオルゼアのためにと、国を捨てたあの子が……
少しでも理想をなしえたのなら、本望でしょう。

ラドルフ ： 「暁」は立ち止まれないぞ！　こうやって噂をききつけた、冒険者が集まってくる限りな！

アレンヴァルド ： あの2人は俺を守って死んだ……　大事なのは、俺がこれから何をするかだと思ってる。そうだよな……アバ、オリ……。

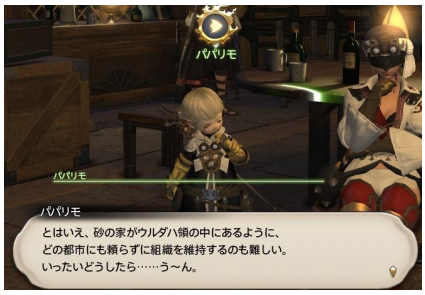


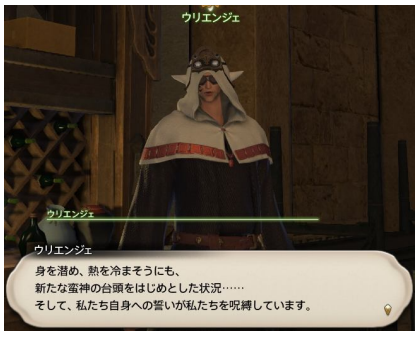


イダ ： 最近、いろんな人が「暁」を訪ねてきてさ。お土産だって言って、いろんなものをくれるんだ。
でもさ、だいたい中身はお菓子じゃないんだよね！　食べられないお土産なんて、ぜんっぜん、うれしくないよ！！

パパリモ ： 組織運営に、資金の安定的な調達は必要なことさ。でも、資金の対価が僕らの魂であっちゃいけないんだ。
とはいえ、砂の家がウルダハ領の中にあるように、どの都市にも頼らずに組織を維持するのも難しい。
いったいどうしたら……う～ん。

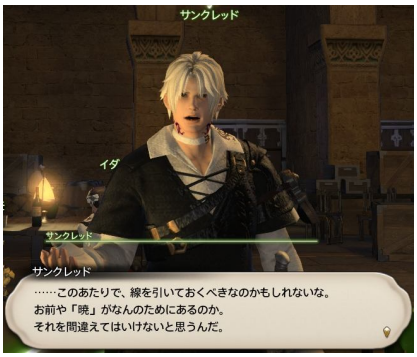
ウリエンジェ ： 新たなるものに、人は本能的に恐怖するもの……。あなたや「暁」の功績を歓迎しつつも、
脅威と捉える者が現れるのは、必定でしょう……。
身を潜め、熱を冷まそうにも、新たな蛮神の台頭をはじめとした状況……　そして、私たち自身への誓いが私たちを呪縛しています。
今こそ選ばねばなりません。私たちは、なにを縁（よすが）とするのか。あるいは……なにをも縁としないのか……。

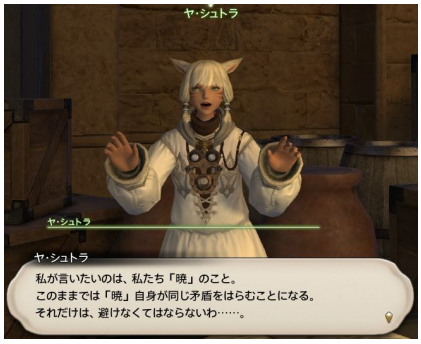




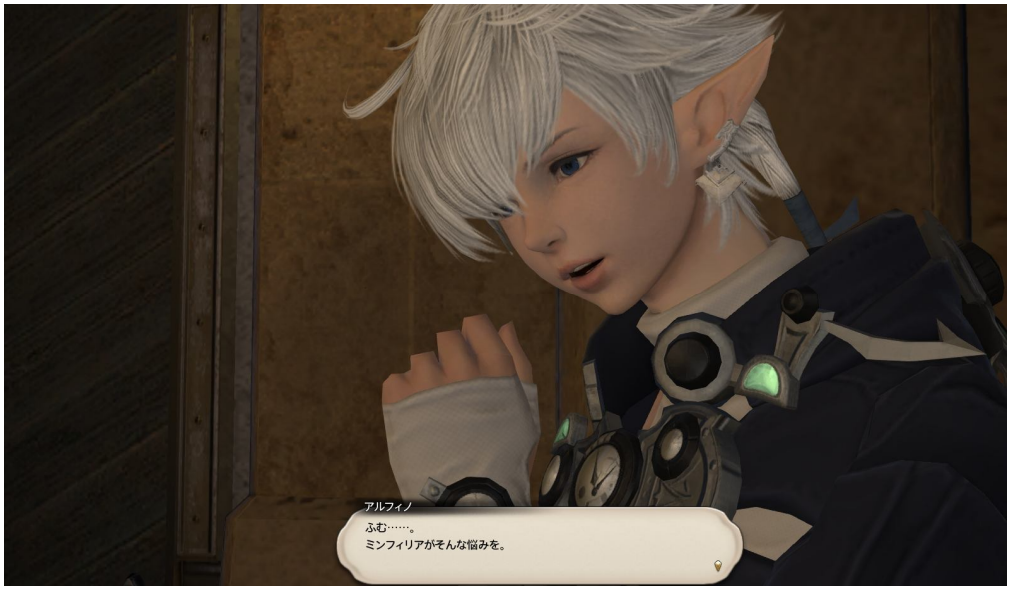
サンクレッド ： 砂都ウルダハは、富と権力の天秤が支配する地だ。だが、これはウルダハにかぎった話じゃないさ。
……富や権力に執着するのは、普遍なる人のサガだからね。
たとえば、アラミゴの民の中には、お前の力があれば、祖国奪還が成るんじゃないかと考えている者もいるだろう。
……このあたりで、線を引いておくべきなのかもしれないな。お前や「暁」がなんのためにあるのか。
それを間違えてはいけないと思うんだ。

ヤ・シュトラ ： 蛮神「タイタン」の討伐の折、メルウィブ提督と対話したことを覚えている？
……協定を破って、内陸部を開拓したのは人のほう。しかし人は、コボルド族が土地を取り戻すことを認めず、
彼らの行動を逆手にとり、攻撃の材料とした……。
そのことについて、是非を論じるつもりはないわ。自分がある一方に属するとき、
他方に属しているかのような物言いをすることは卑怯だもの。
私が言いたいのは、私たち「暁」のこと。このままでは「暁」自身が同じ矛盾をはらむことになる。
それだけは、避けなくてはならないわ……。





アルフィノ ： ふむ……。ミンフィリアがそんな悩みを。
ちょうど私も、現状の「暁」について、考えていることがあってね。
……いい機会かもしれないな。ミンフィリアに話をしてみよう。◆◆◆、君も来てくれ。



ミンフィリア ： あら、どうしたの、ふたりして。

アルフィノ ： ミンフィリア、提案がある。砂の家……「暁の血盟」の本部を移転しないか。

ミンフィリア ： 本部の移転……？

アルフィノ ： そうだ。このベスパーベイから、ほかの土地へ移るんだ。……ここは、ウルダハに近すぎる。
このままでは、「暁」の活動が活発になるほど、ウルダハの共和派からの干渉も激しくなってくるだろう。
まさに、いま君が悩んでいるように。
砂蠍衆を中心とした共和派に飲み込まれるのは危険だ。……どうも黒いものを感じるのでね。
それに、「暁」に所属している冒険者たちからも、以前から申告があったじゃないか。
ベスパーベイにエーテライトを設置できるようウルダハに交渉してくれないか……と。
もっとも、ザナラーンのエーテライト網は共和派の管理下だ。必要以上に砂蠍衆に与（くみ）しないよう、
私が断り続けていたわけだが。

ミンフィリア ： ……でも、アルフィノ。移転といったって、いったいどこに？

アルフィノ ： 各都市に対し公平であるべき「暁」の組織体質。そして今後、真に中立の立場でエオルゼアの救済活動を行うためには……
リムサ・ロミンサ、グリダニア、ウルダハ。これら三都市のいずれからも、一定の距離を保つことができる場所が望ましい。
モードゥナの「レヴナンツトール」だ。
冒険者ギルドの拠点でもある同地は現在、より多くの冒険者を受け入れるために拡張が行われている。
そこに交渉してみようと思う。
それに、三都市の盟主たちが歩みだしたエオルゼア統一組織への道……。私も、その思想に協力したいと思っていてね。
そのためにも、我々「暁」は、国に依存しない場所で活動できた方がいい。

ミンフィリア ： あなたの言っていることは理解できるわ。現状を踏まえても、移転を考えるべきなのでしょうけど……。
……移転か……ウルダハを離れるのね……。

アルフィノ ： 盟主は君だ。ゆっくり考えて、答えを出すといい。
「暁」は、その母体となった「十二跡調査会」のときから、このウルダハにあった。
……いろいろ名残は惜しいだろうが、祖父の理念をかなえるのに、場所は問わないはずだよ。

ミンフィリア ： ルイゾワ様の理念……か。少し考えてみるわ。
そういえば、アルフィノ。家のことはもういいの？

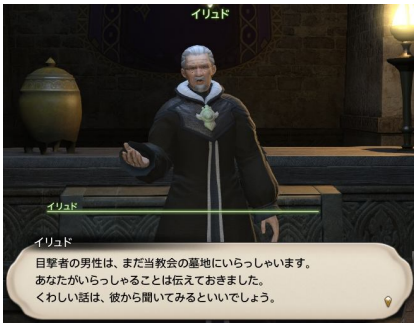
アルフィノ ： ああ、面倒なことは執事長に任せてきた。しばらくは、こちらの仕事に専念できるよ。

歌姫を追って

ミンフィリア ： ルイゾワ様の理念に、「暁」の中立性……か。でも、わたしは……。
ああ、◇◇◇。すっかり伝え忘れていたのだけれど、アルフィノが、あなたに頼みたいことがあるそうよ。
しばらくは、この砂の家にいると思うから、よかったら協力してあげてね。
ここから移転することについては……　ごめんなさい、少し答えを待ってもらえないかしら。
あなたが戻るまでには、きっと答えを出しておくわ。だから……今は独りで考えさせてほしいの。

アルフィノ ： このまま「暁」がウルダハに留まることに利がないことは、ミンフィリアも理解しているよ。
しかし、彼女は「ある人」を待っているのさ。だから、ウルダハから移動することを躊躇している。
かつて「ウルダハの歌姫」と称された、「フ・ラミン」という踊り子を知っているだろうか？
彼女の歌や踊りは、周りの者たちを魅了し、多くの人々に愛された。
……サンクレッドも、彼女の熱心な支持者だったようだね。
そのフ・ラミンは、第七霊災以降、忽然と姿を消した。そして、現在に至るまで、行方がわからないままだった。
……実は、彼女は、ミンフィリアの育ての親でもあるんだ。
以前、ミンフィリアからそのことを聞かされてね。それから私も行方を探すために協力していたのだが、ようやく情報を掴んだよ。
東ザナラーンにある「聖アダマ・ランダマ教会」の「イリュド神父」から、有力な情報が入ったと連絡を受けた。
一足先に出向き、話を聞いてきてもらえないだろうか。私も、あとから駆けつけよう。
探し人さえ見つかれば、ミンフィリアの悩みも解けるはず。そうなれば、本部移転の話も受け入れることができるだろう。
「暁」の未来のためには、移転するべきなのだから。

イリュド ： お待ちしておりましたよ。……「ウルダハの歌姫」の件ですね？　アルフィノさんから連絡を受けております。
先ほど、この教会の墓地へ墓参りにいらした男性が、かつてウルダハで見た踊り子に
そっくりな女性を見たことがある、と言っておりました。
目撃者の男性は、まだ当教会の墓地にいらっしゃいます。あなたがいらっしゃることは伝えておきました。
くわしい話は、彼から聞いてみるといいでしょう。



墓参りの男 ： フ・ラミンさんを探してるってのは、あんたかい？　いやいやいや、俺に会えてあんたは幸運だよ！
なんたって、あの歌姫に再会できるんだからっ！！
7年程前に、フ・ラミンさんの歌と踊りを見たことがあるが、この前、見かけた彼女の美しさは、そのころと変わらず……
いや、齢を重ねて、さらに美しくなっていた！
ああ、フ・ラミンさん……　さすがは「ウルダハの歌姫」とうたわれた踊り子だ。
コスタ・デル・ソルの青空に映える白い肌……　踊り子たちを指導する、鈴のような声……
今でもこの胸が、ズッキンドッキンと高鳴るようだ！！
誰がなんと言おうと間違いない！　俺がコスタ・デル・ソルで見たのは、「ウルダハの歌姫」フ・ラミンさんだっ！！

イリュド ： 話を聞くことができたようですね。お聞きのように、あの男性はフ・ラミンさんをコスタ・デル・ソルで見たと断言しております。
お探しの女性が、ウルダハから姿を消して5年。なにぶん年月が経っておりますので、本当に本人なのかはわかりませんが……。
わからぬことがあれば、わかるまで挑戦するのが冒険者の本懐でしょう。
あなたならば、ことを成せると信じていますよ。

ウルダハの歌姫

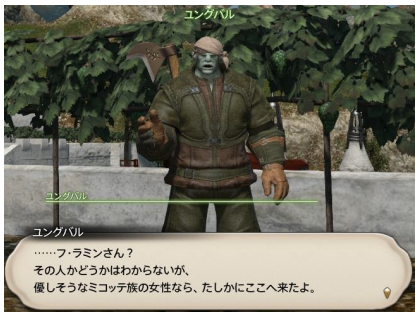
イリュド ： フ・ラミンさんと思われる方は、コスタ・デル・ソルにいるということでしたね。
アルフィノさんには、私から連絡を入れておきましょう。あなたはコスタ・デル・ソルへ急ぎ、フ・ラミンさんを探すといい。
あの辺りは、ゲゲルジュという方の土地だと聞きます。まずは、彼と話をしてみてはいかがでしょうか。

ゲゲルジュ ： さみしいのう、さみしいのう。フ・ラミンちゃんの声が……って、あなたはぁぁぁぁぁぁぁ！！！
きょ、今日はどんな用件で参られたんじゃ？　……な、なるほど、フ・ラミンちゃんを探しに……。
たしかにワシは、踊り子たちの指導役としてフ・ラミンちゃんを雇っておったがのう。
少し前に、仕事を辞めたいと言われてしまったんじゃ。
なぜかのう、ザンネンじゃのう。最後に「西のほうに行く」と言っておったから、今ごろワインポートで踊りを教えておるのかのう。

ビルギレント ： フ・ラミンという踊り子を探しているですって？　たしかに先日、ミコッテ族の踊り子が、ワインを求めてやってきましたよ。
彼女が漂わせる香りが、あまりにワインの香りを損なうので退店願いましたがね！
……はて、その踊り子がお探しの方かどうかまでは。ンふふふ、保証はできませんねぇ。

ユングバル ： ……フ・ラミンさん？　その人かどうかはわからないが、優しそうなミコッテ族の女性なら、たしかにここへ来たよ。

シャマニ・ローマニ ： この気配は……冒険者さん、貴方ですね？　「バッカスグレープ」をみつけてくれた貴方のことを
忘れることなんてできませんよ。
……ここを訪れたミコッテ族の女性ですか？　ええ、今もワインポートに滞在されているはずですよ。
なんでも、この近くに咲く花を摘みにいらしたようで。
あの花は香料にも使われますから、そちらが目的でしょう。少し強い香りで、ビルギレントは苦手のようですが、
とても安らぐ香りですから、私は嫌いではないですけどね。
そういえば、今日はまだ香りが漂ってきませんね。彼女はまた、その花を摘みに行っているのかも知れません。
花の咲く、南のほうを探してみてはいかがでしょう？



フ・ラミン ： ありがとう、冒険者さん。花摘みに気を取られて、魔物に襲われるだなんて。……帝国の脅威が去って、気を緩めすぎかしらね。
この花は、とてもよい香りがするの。……この香りを好きな知人がいてね。その人に贈ろうと思って、採りにきていたのよ。
ええ、フ・ラミンは私ですけど……。もしかして、私を探しに？
あら、この香り……。あなたアシ……いえ、ミンフィリアという女性をご存知では？

アルフィノ ： まったく、探したぞ。移転準備の合間を縫ってイリュド神父を訪ねたはいいが、まさかラノシアまで足を伸ばしていたとは。
あなたが、フ・ラミンさんですね？

フ・ラミン ： ……はい、そうですが？

アルフィノ ： ようやく、お目にかかることができました。私どもは、あなたを探していたのです。
フ・ラミンさん。どうか、ミンフィリアと会っていただけないでしょうか。
彼女は、霊災で生き別れとなったあなたを探していました。

フ・ラミン ： ……まぁ、ミンフィリアに。そうね、霊災のあと、しばらく身を潜めていたから……。
フフ、でも良かったわ。私も、ミンフィリアに会おうと思っていたところなの。

アルフィノ ： それはよかった！　……しかし、なぜこのようなところに？

フ・ラミン ： この花は、彼女が好きだった香水の原料でね。……もうすぐ私たちの記念日があるの。
その記念として、ミンフィリアに香水を渡そうと思って。

アルフィノ ： 記念日の贈り物に……しかし、ここは魔物も多い。花を摘み終わったようでしたら、一度ワインポートへ戻りましょう。
◆◆◆、助かったぞ。ご苦労だったな。私たちは、先に「ワインポート」で待っているぞ。

フ・ラミン ： さっきは危ないところをありがとう。フフ、あなたの活躍を見て、ある人を思いだしたわ。
私と恋人の愚かさから、ウルダハを守ってくれた冒険者。そして今は、光の中の影みたいに、顔を思い出せない人。
……もう10年以上も前のことよ。

アルフィノ ： イリュド神父からの情報は、正しかったようだな。無事にフ・ラミンさんを保護できて、まずは一安心といったところか。
ところで、香水の話を覚えているか？　察するところ、フ・ラミンさんが作ろうとしている香水は、
彼女とミンフィリアの思い出の品ではないだろうか。
フ・ラミンさんと香水……　これらをミンフィリアに引きあわせれば、彼女の心も決まるかもしれない。
だが、フ・ラミンさんに聞いたところ、香水を作るには、あとひとつ危険を冒さねばならないらしい。
……そこで、君の出番というわけだ。
砂の家移転のためにも、ここは一肌脱いではくれないか？

母と子

フ・ラミン ： ……あら、香水作りを手伝ってくれるの？　ありがとう、本当に助かるわ。実は、もうひとつ足りない材料があるの。
それはね、「濁りなきサラマンダー油」よ。高地ラノシアのブロンズレイクに棲息するグランガッチから採れるんだけど……。
グランガッチは普段、姿を見せないうえに、ブロンズレイクのぬしと呼ばれるくらい異常に巨大化しているらしいの。
好物のマッドプギルを捕まえて、おびき出すことまでは考えてたんだけど……。どうやって倒そうか、悩んでいたのよ。
でも、あなたが協力してくれるなら大丈夫ね。いとも容易くグゥーブーを倒したほどですもの。よろしくお願いするわ。

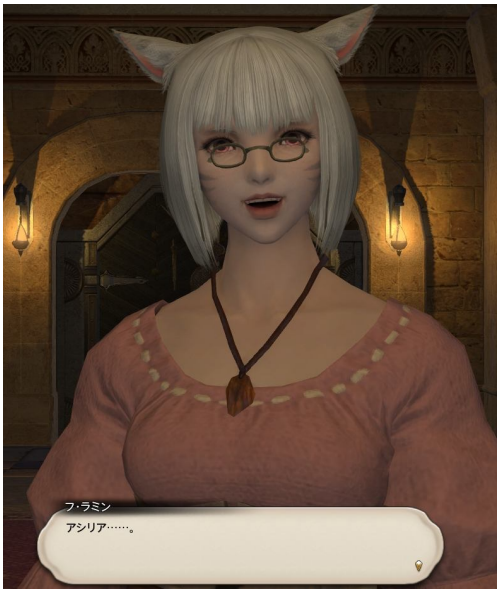
アルフィノ ： フ・ラミンさんは、ミンフィリアや「暁」の活躍を知っていたよ。きっと各地を転々としつつ、情報を集めていたのだろう。
遠く離れていても、子を想う……。母とは、偉大なものだな。

フ・ラミン ： 「濁りなきサラマンダー油」を取ってきてね。グランガッチを倒すには、好物のマッドプギルを使って、おびき出すといいわ。
ありがとう、冒険者さん。これで、香水を作ることができるわ。
……濁りなきサラマンダー油なんて、どうするのかって？　フフ、これはね……ぽとぽとぽと、っと。
こんなふうに、オイルとして使うの。
さあ、これで香水の完成よ。……うん、心の準備もできた。ミンフィリアに会いに行きましょう。

アルフィノ ： ミンフィリア。君の探し人を連れてきたよ。

ミンフィリア ： まさか、ラミン！？

フ・ラミン ： アシリア……。



タタル ： ……アシリアっていうのは、ミンフィリアさんの本名なんでっす。

ミンフィリア ： いままで、いったいどこに……。ずっと探していたのよ。

フ・ラミン ： フフ、帝国に追われていてね。あなたに危害がおよばないよう、各地を転々としながら身を潜めていたの。
ここしばらく、帝国の動きが静かになってホッとしたわ。
……活躍は耳にしていたわよ、アシリア。立派になったわね。

ミンフィリア ： ……本当に心配してたんだから。

フ・ラミン ： もうすぐ、私たちが出会った記念日。だから、これを渡しに来たのよ。

ミンフィリア ： これはセルセトの香水……。わたしがこの香りを好きだったの、覚えていてくれたんだ。

フ・ラミン ： うふふ、今も付けているものね。冒険者さんから、わずかにうつり香がしたの。

ミンフィリア ： でも市販の香水じゃ、ラミンの手作りにはおよばないから。うれしいわ……。

フ・ラミン ： その香水を作るために、この方に、いろいろ助けていただいたのよ。

ミンフィリア ： ありがとう、◇◇◇。

フ・ラミン ： それに、これ。

ミンフィリア ： これは……「猫目石」……。まだ持っててくれたんだ。
あなたにも、ちゃんと説明しなきゃね。このラミンは、わたしの育ての親よ。……わたしはアラミゴの出身なの。
反帝国活動をしていた父に連れられてウルダハを訪れていたときに、「事故」で父を失ってね。
異国で家族を失い、途方にくれていたわたしを引き取って、育ててくれたのが彼女よ。

アルフィノ ： なるほど……。帝国と戦うのは、父譲りの宿命ってわけか。

ミンフィリア ： ラミンは、わたしが独り立ちできるよう、採掘師の技術を教えてくれたの。
その採掘で最初に見つけたのが、この猫目石ってわけ。ちっぽけな原石だったけど、とても嬉しかった……。
でも、この石は、ラミンにプレゼントしたものよ。わたしが最初の一歩を歩み出すことができた、お礼としてね。

フ・ラミン ： だからこそ、あなたに持っていてほしいの。真の平和に向かって新たに歩みだした、あなたに。
数年ぶりにあなたを見て、改めて実感したわ。あなたは、かつて私たちができなかったことを成し遂げようとしている。
私の「母」としての役目は終わったのね。アシリア……あなたはもう、立派に独立した女性よ。

ミンフィリア ： ……ラミン。

フ・ラミン ： 私は、愛する人がザル神の御許で安らかに眠ることができるように、祈りを続けるわ。あなたは、あなたにしかできないことをやりなさい。

ミンフィリア ： ありがとう……おかあさん……。
……アルフィノ。「暁」の本部移転計画を進めましょう。
ラミンが言ってくれたとおりだわ。わたしたちは、中立の立場でエオルゼアを救済し続ける。
……わたしたちにしかできないことをしましょう。
そうと決まれば、さっそく準備をしなくちゃね！　各国に連絡を取らなきゃ……
いえ、先に委員会に話を打診しておかないと……。

フ・ラミンの歌声

ミンフィリア ： 本部を移転すると決めたら決めたで、やることがいっぱいね……。
アルフィノが移転先として挙げていた、モードゥナのレヴナンツトール……。
あの拠点の西に「崩壊したキャンプ」があるのを知っている？　あそこには、第七霊災で崩壊する前まで、
「キャンプ・レヴナンツトール」という拠点があったわ。
そして、今のレヴナンツトールは、失われたキャンプの機能を取り戻すべく、
「冒険者ギルド」が主体となって復興を進めている集落よ。
……レヴナンツトールへ移転するとなれば、彼らとの協力体制は必要不可欠。冒険者ギルド本部とも話さなきゃいけないわ。

アルフィノ ： そう思って手配しておいたよ。

ミンフィリア ： 相変わらずやることが早いわね。

アルフィノ ： きっと君がその気になってくれると思ってね。話をするなら、早いほうが良いだろう？

ギルド本部の使者 ： 話はアルフィノ殿から伺っている。
ともにレヴナンツトールを盛り上げていくため、良い話になることを期待している。

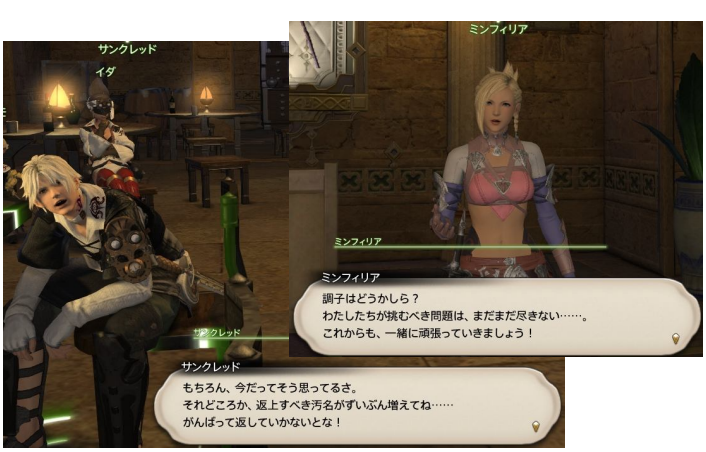
アルフィノ ： 冒険者ギルドとの話は、私の方で進めておこう。ミンフィリア、君にはその他の調整をお願いしたい。

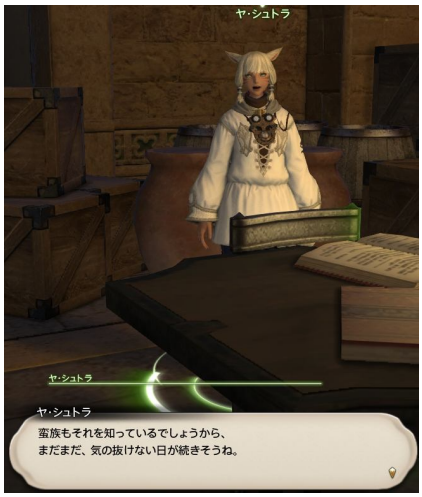
ミンフィリア ： わかったわ。

ギルド本部の使者 ： 君が◆◆◆か。……うむ、良い顔をしているな。
レヴナンツトールで冒険者ギルドの顔役をしているスラフボーンから、君の噂は聞いているよ。
これから、レヴナンツトールを発展させていこう。よろしくな！

ミンフィリア ： さて、やることはいっぱいだけど、ひとつひとつ片付けていかなきゃね！
わたしたちが準備している間に、あなたにお願いがあるの。……これは、光の戦士であるあなたではなく、
友人としてのあなたへの、個人的なお願いよ。
ラミンが、何か悩んでいるみたいでね……。
心配させないようにしているのか、わたしには言ってくれないんだけど……　娘ですもの、母親が悩んでいることくらい解るわ。
ラミンは、あなたをずいぶんと買っていたわ。だから、あなたになら、悩みを打ち明けるかもしれない。
……どうか話を聞いてあげてくれないかしら？
ありがとう……。母をよろしくね。

ミンフィリア ： 調子はどうかしら？　わたしたちが挑むべき問題は、まだまだ尽きない……。これからも、一緒に頑張っていきましょう！





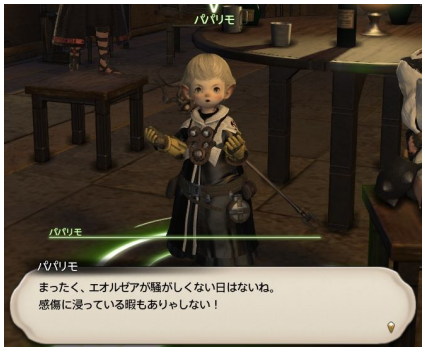
サンクレッド ： 今度こそお前の役に立つ……　って言ったきりになっていたよな。
もちろん、今だってそう思ってるさ。それどころか、返上すべき汚名がずいぶん増えてね……
がんばって返していかないとな！

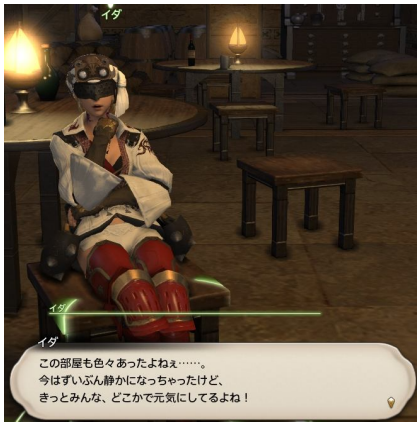
ヤ・シュトラ ： 帝国との戦いには区切りがついたけれど、どの国も、かなり戦力を消耗してる……。
蛮族もそれを知っているでしょうから、まだまだ、気の抜けない日が続きそうね。

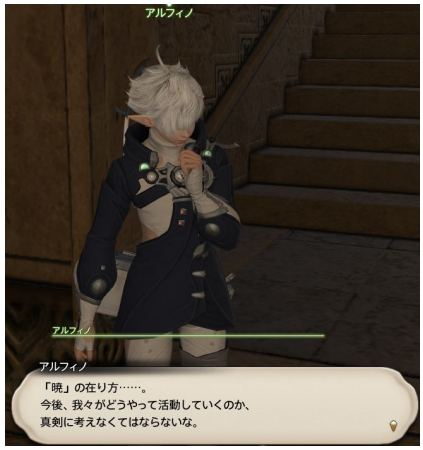
イダ ： この部屋も色々あったよねぇ……。今はずいぶん静かになっちゃったけど、きっとみんな、どこかで元気にしてるよね！

パパリモ ： まったく、エオルゼアが騒がしくない日はないね。感傷に浸っている暇もありゃしない！

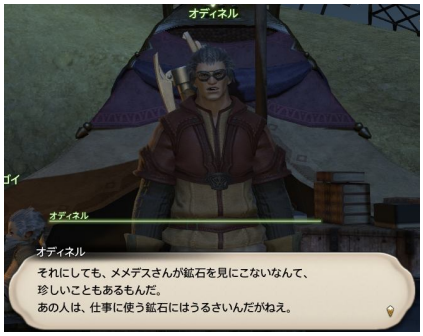
アルフィノ ： 「暁」の在り方……。今後、我々がどうやって活動していくのか、真剣に考えなくてはならないな。







フ・ラミン ： ……ミンフィリアがそんなことを？　フフ、子供はいつの間にか成長するものね。小さなアシリアが、あんなに立派になって……。
優しい冒険者さん、本当に甘えてしまっていいのかしら？　実は……ずっと大事にしてきた耳飾りが壊れてしまったの。
この耳飾り、ウルダハの彫金師ギルドへ持っていって、修理をお願いしてきてもらえないかしら？
私は、あそこへ行くことはできないから……。



メメデス ： ……耳飾りを修理してほしいって？　そんじゃまあ、まずは現物を見せてみな。
こ、この耳飾りはまさか……！！　いや、この見事な彫り、細やかな削り、なにより、小粒の猫目石を大胆にも繊細に散らせた意匠……！
間違いねえ！　こいつは稀代の天才彫金師ニエルフレーヌが手掛け、恋人に贈ったっていう「フ・ラミンの歌声」だ！！
こ、こんなすげえ代物の修理を依頼されるなんざ……　うおおお、手が震えてきた！！
……こいつには、時間をかけて取り組みたい。なぁあんた、そのかわりと言っちゃ悪いんだが、
採掘施設へ鉱石を取りにいってくれねぇか？
採掘施設で掘りだされる遺物に混じってる鉱石を、格安で譲ってもらう約束をしてるんだが……
今はそれどころじゃねぇ、こいつの修理に集中したいんだ！
採掘施設は南ザナラーンにある。話は通してあるからよ、そこの「オディネル」って奴から鉱石を受け取ってくれ。

オディネル ： ……おや、メメデスさんの使いだって？　それはご苦労さんだ。
それにしても、メメデスさんが鉱石を見にこないなんて、珍しいこともあるもんだ。あの人は、仕事に使う鉱石にはうるさいんだがねえ。
ともかく、頼まれていた鉱石はこれだよ。さあ、持っていくといい。

メメデス ： お、おう、こっちの仕事は終わってるぜ。あんたのほうはどうだ？
……約束の品に間違いねぇ、ありがとうよ。へっへっへ、こいつがあれば……じゃなくって！
ほ、ほら、頼まれた耳飾りを修理しておいたぜ。
そ、そそそ、その、板バネが折れてたんで、そこを取り換えて……あと、ちょっと磨いといたんだ。
自分じゃ、うまくできたと思うんだが……うん。
こんなにすげえ代物をいじらせてもらえて、本当に光栄だ！　もちろん、お代なんて必要ねぇ！
持ち主に、礼を言っといてくれよな！！

フ・ラミン ： あの耳飾りは、私の祈りの象徴。だから、どうしても壊れたままにしておきたくないの。
まぁ、ありがとう……。こんなに綺麗に修復してもらえるだなんて。
このイヤリングは、私が愛した……　いえ、今も愛している人が造ってくれたものなの。……彼は、今も眠り続けているわ。
アシリアとの再会もできた今、私にできることと言ったら、彼の魂がザル神の御許に辿り着くことができるように、祈り続けること……。
そして、この「暁の血盟」がエオルゼアのために活躍し続けることができるよう、お手伝いすることだけね。
あなたは「暁」にとっても、アシリアにとっても、かけがえのない存在だと聞いたわ。これからも彼女を、みなさんをよろしくね。
アシリアにも、礼を言っておかなきゃね！　あなたも、報告に行くといいわ。心配しているでしょうから。

フ・ラミン ： アシリア……立派になって……。私も、私にできることをやらないとね。

ミンフィリア ： ありがとう、◇◇◇。ラミンの悩みを解決してくれたのね。彼女に笑顔が戻って、わたしもうれしいわ。

アルフィノ ： ◆◆◆も居たのか。ちょうど良い。
ミンフィリア、冒険者ギルドとの話し合いが付いたぞ。

ミンフィリア ： まぁ、どうだったの？

アルフィノ ： 冒険者ギルドからの全面的な協力を得ることで合意したよ。彼らが進めているレヴナンツトールの拡張の一環に、
我々も参加するかたちでね。
モードゥナのレヴナンツトールに、我々の新たな本部施設、「石の家」を建設する。

ヤ・シュトラ ： これで、ミンフィリアの悩みも解消されるわね。……タタルのふくれっ面を見られなくなるのは、少し残念だけど。

ミンフィリア ： 私からも報告があります。さきほどウルダハから連絡があって、これで三都市の同意を得ることができたわ。
正式に独立した中立の組織として、「暁の血盟」を再発足させることになります。

アルフィノ ： それは、本当か？

ミンフィリア ： ええ。形だけの秘密結社だった「暁」はおしまい。
これからは、広く第三者の認める組織としての「暁の血盟」になるの。

パパリモ ： 「救世詩盟」や「十二跡調査会」の延長ではない、新しい組織としての「暁」ってことか。

イダ ： 私たちの活動が認められたってわけだね！

ミンフィリア ： わたしたちが、これまで以上に、大きな信頼を寄せられているっていうことよ。
これは、先の蛮神、帝国との戦いでの、あなたの功績によるところが大きいわ。
さて、本格的に忙しくなるわ。みんな、がんばっていきましょう！

タタル ： レヴナンツトールは、岩がいっぱいのところでっす。……そろそろ採掘師の資格もとるべきでっすかね。

レヴナンツトールへ

ミンフィリア ： 移転を決めた途端、アルフィノから実務を山ほど渡されたわ。まったく、彼の手際の良さには感心するわね。
……先見の明？　それとも、一日の長なのかしら？
ともかく、わたしもタタルさんも賢者のみんなも手一杯。あなたにも、ひとつ頼まれてほしいの。
この「本部移転計画書」をレヴナンツトールのスラフボーンさんに届けてくれるかしら？
大事な書類だから、失くさないように気を付けてね。

スラフボーン ： こんな辺境の……と、お前か、冒険者。「暁」からの連絡を待っているのだが……　もしや、お前がその連絡役かな？
……ふむ、ようやく来たか。たしかに受け取ったぞ。これでキャンプ復興へ取りかかれる。
復興にあたっては、障害も多いだろう。このレヴナンツトールでも、いろいろと準備をしなければな。
助力を期待しているぞ、冒険者。

埋没寺院で石材探し

スラフボーン ： ……さっそくだが冒険者、ひとつ頼みたいことがある。現在、このレヴナンツトールは順調に拡張を進めている。
この先、さらなる拡張を行うためには、障害となる帝国軍や魔物から身を守るために、外壁も強化せねばならん。
そこで、魔除けの力を持った特殊な石材を入手してきてほしいのだ。
カルン埋没寺院という遺跡を知っておるか。あの遺跡には、盗掘者を防ぐために、魔法仕掛けの罠が張り巡らされていると聞く。
その遺跡の石材を使って外壁を補強すれば、この地の守りを、さらに固めることもかなおう。
そうなれば、レヴナンツトールも安泰だ。
「カルン埋没寺院」は南ザナラーンにある。かの遺跡を調査している「ビビム」に話せば、中に入れてもらえるだろう。
カルン埋没寺院を踏破すれば、「カルンの封魔石」を見つけることができるはず。
冒険者ギルドと「暁」の関係強化のためにも頼んだぞ。

ビビム ： この遺跡は「カルン埋没寺院」。古代都市ベラフディアの者らが、日神「アーゼマ」を祀るために建てたものだ。
……ふむ、スラフボーンから連絡があった冒険者というのは君か。
たしかに、遺跡の内部では、魔力を帯びた石材を手に入れることができよう。
しかし、この埋没寺院は、これまで何人もの冒険者をザル神の御許へと旅立たせた不吉なる場所……。
十二分に気を付けて行ってくるがいい。

スラフボーン ： カルン埋没寺院を踏破すれば、「カルンの封魔石」を見つけることができるはず。
冒険者ギルドと「暁」の関係強化のためにも頼んだぞ。
おお、これが頼んでいた石材だな。うむ、見るからに力がありそうな石ではないか！
……なに、本当に効力があるのか、だと？
はっはっは、いかにも実利にさとい冒険者の意見だ！　……いいかな、実際の魔よけの効果云々よりも、
万全の備えができたという心持ちこそ肝要なのだよ。
ともかく、これで作業にかかれる。感謝するぞ、冒険者。

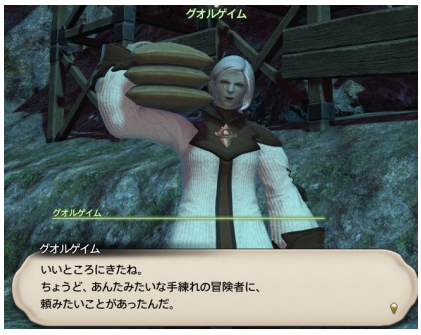
帝国軍への牽制

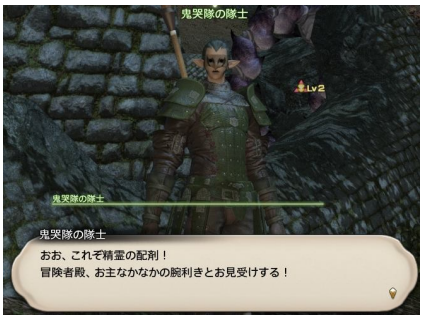
サルク・マウルク ： おや、いつぞやの冒険者さん。レヴナンツトールへようこそ。
かつて、岩ばかりの荒れ地だったここも、再び集った冒険者たちによって、活気づいてきました。
開拓に参加した身としても、本当に喜ばしいかぎりです。
しかし、一方で危惧していることもあります。賑わいをみせるレヴナンツトールを警戒してか、
周辺の帝国軍が、なにやら動いているとの噂があるのです。
その噂を裏付けるかのように、先日、ここから南西にある帝国軍の採掘拠点にコンテナが運びこまれたとの情報もあります。
……コンテナの中身は、おそらくは軍需品でしょう。かの地に残留する帝国軍が拠点を死守しようと、
防備を固めているに違いありません。
冒険者さん、どうか大事に至る前に、問題のコンテナを破壊していただけないでしょうか。
コンテナ破壊には、この「24オンズ爆弾」をお使いください。錬金術師ギルドに言って、特別に用意させたものですので、
威力は保証しますよ。
カストルム・セントリに駐屯していた帝国軍を相手に「あざむき作戦」をやってのけたあなただ。
……きっと成功すると信じています。

サルク・マウルク ： おつかれさまです、冒険者さん。どうやら、爆破に成功したようですね。
これでしばらくは帝国軍も静かになるでしょう。……しかし、油断はできませんね。
私もいっそう、気を引き締めるようにしなくては。
……おや、錬金術師ギルドに特注の爆弾を作らせるだなんて、やはり私が富豪の息子なんじゃないかって？
……おかしなことをおっしゃいますね。私は一介の冒険者……。志を同じくする者として手段を提供しただけですよ。

襲われた輸送隊

グオルゲイム ： いいところにきたね。ちょうど、あんたみたいな手練れの冒険者に、頼みたいことがあったんだ。
グリダニアから、このレヴナンツトールへ向け出発したはずの物資輸送隊の到着が遅れていてね。
……もしかすると、輸送隊に何かあったのかもしれない。
輸送隊は北部森林を経由してくる予定だったんだ。悪いけど、フォールゴウドにいる鬼哭隊の隊士を訪ねて、
輸送隊の様子を探ってきとくれよ。

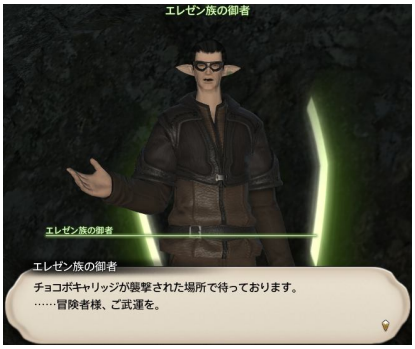


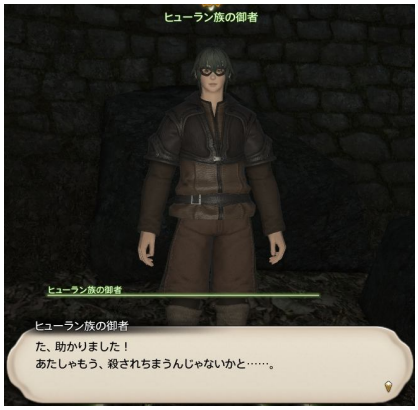


鬼哭隊の隊士 ： ……レヴナンツトール行きの輸送隊ですか？　いえ、フォールゴウドには到着しておりませんよ。
もしや……いやしかし、つじつまが……。失礼、実はつい先ほど、チョコボキャリッジがイクサル族に襲われたとの報が入ったのです。
都市からここまでの距離を考えると、考えにくいことではありますが……。それこそが、お探しの輸送隊かもしれません。
チョコボキャリッジが襲われたのは、ここから東の街道沿いだと聞いております。
現地に急行した仲間から、直接、話を聞くといいでしょう。

鬼哭隊の隊士 ： おお、これぞ精霊の配剤！　冒険者殿、お主なかなかの腕利きとお見受けする！
見てのとおり、チョコボキャリッジがイクサル族に襲われてな。物資が強奪されたうえ、御者2名も拉致されたようなのだ！
おそらく、ここより北西にあるイクサル軍伐採所に連れ去られたものと思われる。
急ぎ、御者らを救出し、物資を取り戻してくれ！！

エレゼン族の御者 ： ……くっ、ありがたい。戒めさえ解ければこちらのもの。あとは、なんとか自力で脱出いたしましょう。
チョコボキャリッジが襲撃された場所で待っております。……冒険者様、ご武運を。





ヒューラン族の御者 ： た、助かりました！　あたしゃもう、殺されちまうんじゃないかと……。
……っと、のんびり話してたら、本当に殺されちまう！　それじゃあね、お先に失礼させてもらいますよ！

鬼哭隊の隊士 ： 冒険者殿、よくぞ救出してくれた！　感謝いたしますぞ！

ヒューラン族の御者 ： 今度のことで、あたしゃ10年は寿命が縮んだよ！　あたしの命があるのは、ぜーんぶアンタのおかげでさぁ。
ほんっとうに、ありがとうよ！！

エレゼン族の御者 ： 危ないところを救っていただき、我ら2人、お礼の言葉もございません。
……レヴナンツトール宛ての物資をお探しですと？　ううむ、大変申し上げにくいのですが、実は、こちらがその物資なのですよ。
チョコボキャリッジは、この有様ですし……　現地の方には、すぐに別のキャリッジを手配するので、
それまでお待ちください、と伝えていただけませんか？

グオルゲイム ： ……なんだって！？　イクサル族にキャリッジが襲われていた！？
……いや、驚くような話でもないか。蛮神復活の噂が、こんなところまで聞こえてきてるんだ。
その裏には、蛮族の蛮行があって当然しかりさ。
ともかく、御者や物資の奪還まで、よくやってくれたね。本当にありがとよ！

スラフボーンは悩んでいる

スラフボーン ： ……ううむ、どうすれば良いものか。おお、冒険者か。実はな、頭の痛い問題があるのだ。
レヴナンツトール拡張は順調そのもの。冒険者たちも、続々と集まってきている。これは良いことなのだが……。
集まった冒険者は、アラグ文明の石集めに奔走し、なかなか冒険者ギルドの依頼をこなしてもらえていない。
冒険者ギルド本部も、成果が上がらず困っている状態だ。
一方で、ロウェナの店は冒険者で溢れ、繁盛している。あの活気が、冒険者ギルドにもほしいところなのだが……。
……そこで、お前に頼みがある。
冒険者ギルドからの依頼をこなし、新米の冒険者たちに、ギルドの仕事を教える役目を担ってほしいのだ。
エオルゼアの英雄たるお前が依頼をこなすことで、新米たちも、それを手本として活躍してくれるだろう。
そうなれば、きっと冒険者ギルドも活気付く。
……そうだな、ちょうどギルドオーダーで、「ギルガメを捕獲せよ！」という依頼が出ているはず。
これを達成してきてほしい。
ギルドオーダーについては、3都市周辺の集落にいる「ギルドオーダー発行人」から詳しい話を聞くといい。
冒険者ギルドと「暁」との良い関係性のために頼んだぞ。

スラフボーン ： おお、戻ってきたか。冒険者ギルド本部から連絡を受けたぞ。見事、依頼を達成してくれたようだな。
お前の働きは、冒険者ギルドのみならず、レヴナンツトールに集う冒険者の活気へと繋がるだろう。感謝するぞ、冒険者。

冒険者ギルドからの依頼

スラフボーン ： お前か、良い知らせがあるぞ。冒険者ギルド本部が、お前の活躍に感謝の言葉を送ってきた。
なんでも、ギルドの依頼を受ける冒険者が増えているそうだ。
さて、もののついでだ。もうひと仕事、頼んでもいいだろうか。
仕事の内容は、先に同じくギルドオーダーだ。「汚染源モルボルを討て！」という依頼が出ているはず。
これを達成してきてほしいのだ。
地道な依頼だとは思うが、お前が達成してくれれば、ほかの冒険者も後に続き、冒険者ギルドも活気付くだろう。
冒険者ギルドと「暁」との良い関係性のために頼んだぞ。

スラフボーン ： 戻ったか、冒険者。無事に達成できたようだな、感謝するぞ。
英雄であるお前が、地道な仕事も真摯にこなす様、思いのほか、胸に迫った者が多かったらしい。
……そう、お前に続く者が次々に出ておるのだ！
これで、心配事もなくなったというもの。我らこの地に集う者、万全の体制にて「暁」を迎えよう。
これからもよろしく頼むぞ、◆◆◆！